

## 企画展 美術館創設60年のあゆみ 石川の美術



国宝《色絵雉香炉》、重文《色絵雌雉香炉》  
いずれも野々村仁清

■ 特別陳列 前田家の名宝Ⅱ【前田育徳会尊經閣文庫分館】

■ 特別陳列 よみがえった文化財

ー修復工房の修復実績ー【古美術】

- ミュージアムレポート 学校出前講座
- 皇嗣秋篠宮妃紀子さま石川県文化財保存修復工房視察
- 文化財現地見学 参加者募集
- 9月の行事予定
- アラカルト ただいま展示中

◆観覧料

	一般	団体/友の会
大人	1,000円	800円
大学生	800円	600円
高校生以下	無料	

※団体は20名以上。  
65歳以上は団体料金。

主催：石川県立美術館

後援：北國新聞社、NHK金沢放送局、北陸放送、石川テレビ放送、テレビ金沢、北陸朝日放送

昭和三十四年に開館した石川県美術館から数えて、今年で六十年の節目を迎えた石川県立美術館。今回の企画展では、三千九百点を超えたコレクションから選りすぐった作品をご覧いただきます。

作品を所蔵していく道筋は、美術館のあゆみと重なります。石川県に伝わる名品の展示、伝統工芸展・工芸作家選抜美術展の開催にともなう工芸作品の充実。昭和五十八年の新美術館にむけて油彩画・日本画・彫刻など現代作家の作品収集と進めてきた結果、この収蔵品総数となりました。

展覧会をとおして石川の美術をあらためて認識し、当館の個性を見直すとともに、その魅力を全国に発信していきたいと思えます。

古美術部門 (第1・7・8展示室)

古美術部門は、第1展示室の雉香炉の他に、一部寄託品を交えて以下の観点から作品を選びました。

- 一「石川の美術のルーツ」前田家による収集と育成、
- 二「茶道美術」、三「琳派」、四「狩野派とその周辺」、五「古九谷」、六「加州刀」、七「ガラス」、八「能面・能装束」、九「浮世絵」。

このうち一では、県文の《前田利家画像》(寄託品)を「すべてはこの人から始まった」との趣旨で最初に展示し、収集と育成に大別される前田家の文化政策のうち、収集した名品として《古今和歌集 清輔本》と《天狗草紙 園城寺巻》(いずれも重文・寄託品)を展示します。そして、育成の観点からは重文《蒔絵和歌の浦図見台》(伝清水九兵衛)、県文《蒔絵螺鈿秋月野

◆記念講演会

9月1日(日)

「石川県立美術館 創設60年のあゆみ」 当館館長 嶋崎 丞

13時30分～ 美術館ホール 先着二百名 無料

◆土曜講座

13時30分～15時 美術館講義室 無料

9月7日(土)	「再考 美術館開設60年(1)」	修復工房次長 高嶋清栄
9月14日(土)	「県美油絵収集のあゆみ」	普及課長 二木伸一郎
9月21日(土)	「石川県立美術館収集のあゆみ」	学芸第一課長 谷口 出
9月28日(土)	「石川県立美術館の古美術コレクション」担当課長	村瀬博春

景図硯箱》(伝五十嵐道甫)と、加賀象嵌鍍の優品を展示します。二では、重文《色絵梅花図平水指》(野々村仁清)をはじめ、銘碗の誉れ高い「宝樹庵」、「楚白」、「北野」(いずれも県文)のほか、初代大樋長左衛門の代表作ともいえる県文《飴釉烏香炉》などを展示します。

三では琳派の祖、俵屋宗達晩年の名作《檜檜図》、宗達に私淑した尾形光琳の《蒔絵螺鈿白楽天図硯箱》(いずれも県文)と、光琳の弟・乾山の《色絵雲錦手杯台》を展示します。四では重文《西湖図》(秋月等観)と、それに触発された狩野元信、探幽による同名作、そして探幽門下で後年その門を離れた久隅守景の重文《四季耕作図》を展示します。その他の区分では、重文《緑地桐鳳凰文唐織》をはじめ、国・県指定の文化財を網羅します。



重文《西湖図》秋月等観

# 美術館創設60年のあゆみ 石川の美術

8月31日(土)～10月7日(月) 会期中無休

## 純粋美術部門 (第3・4・6展示室)

当館の近現代絵画・彫刻部門のリストは、地元ゆかりの作家中心ですが、かなりのボリュームです。一堂に会すると、石川県にゆかりのある優れた作家が多いことに改めて驚かされるでしょう。東京美術学校よりも歴史のある県立工業高等学校(県工)の存在や、戦後いち早く創立された現・金沢美術工芸大学、また現代美術展の存在が大きいといえるでしょう。

まず、油彩画部門では、高光一也を除いてはそのコレクションを語ることはできません。高光一也は金沢美術工芸大学の創立や現代美術展の創設に尽力した石川県美術界の功労者です。昭和五十八年の当館開館に際しては一〇六点の油彩画、三十点の水彩画

が寄贈されています。高光と同年代の宮本三郎を含め、古くは浅井忠から現在活躍中の作家まで二十八名三十一作品を展示します。

日本画部門では、横山大観や伊東深水など全国的に著名な作家の他、特別陳列で回顧展を開催した作家からチョイスしました。そういった作家は、開館二年目に開催した原田太乙から直近の仁志出龍司まで十七名になります。

彫刻部門は、吉田三郎を師とする作家、金沢美術工芸大学で教鞭をとった作家、日展や日彫展で活躍した作家を中心に紹介します。

その他、大画面一杯に老婆の表情を描いた木下晋の鉛筆画《想望》や石川県ゆかりの書家、金田心象《破離》など、バラエティ豊かな展示をお楽しみください。

## 近現代工芸部門 (第5・9展示室)

近現代工芸部門は、この六十年間に開催された展覧会を、出品作品とともに振り返ります。

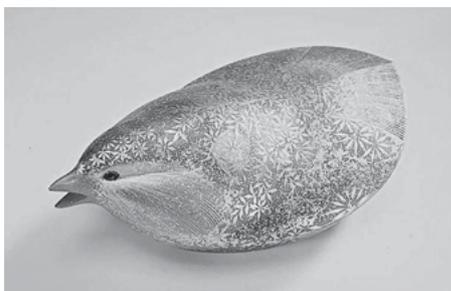
まずは石川県美術館時代(昭和三十四年～五十八年)。この時期は、開館年に「館有美術品展・郷土工芸作家美術展」が開催され、当館初の近現代工芸の展覧会となりました。三十八年には日本伝統工芸展が第十回目にして初めて金沢に巡回、また「石川県の人間国宝展(四十五年)」といった、その後の当館の方向性を示す展覧会や、松田権六、大場松魚らの展覧会が開催されました。さらに地元の工芸作家を取り上げた「石川県工芸作家選抜美術展」(第一～八回、五十一～五十八年)が行われています。

五十八年に新しく石川県立美術館として開館してから、平成十九年にリニューアル準備に入るまでの

時代には、伝統工芸や地元ゆかりの作家を重視するという旧館時代の方向性を踏襲し、「人間国宝 匠のわざ」(六十年)や、隅谷正峯、羽田登喜男、浅蔵五十吉、寺井直次、大樋長左衛門といった作家たちの展覧会が行われる一方、いち早く図案に注目した「工芸作品と図案」(平成十一年)など、意欲的な展覧会も開催されています。

そして平成二十年のリニューアルオープン後から現在に至るまでは、「工芸に見る石川の巨匠」(二十八年)といったコレクションを総体的に紹介する展覧会に加え、「森羅万象をまとう 木村雨山・二塚長生のわざ」(三十年)や「URUSHI 伝統と革新」(三十一年)などが開催されています。

以上のように、今回は展覧会とともに当館のあゆみを辿ることができる構成になっています。



西出大三《華鳥》



高光一也《フードの女I》

## 学芸員の眼

前田利為のコレクションの中でもひととき異彩を放っているものの一つに、「近代音楽の父」とも呼ばれる、J. S. バッハ(一六九五～一七五〇)の自筆楽譜があります。バッハは作者不明の《ルカ受難曲》を一七三〇年頃に筆写していますが、今回展示されるのは、その中の第一部の最後に歌われるコラール《深き淵より》です。この楽譜の存在が改めて注目された一九八五年(バッハ生誕三百年)では、書かれた年代は精査されませんでした。そこで翌年に石川県立美術館で公開された際に、筆跡を《口短調ミサ曲》や《フーガの技法》など、書写年代を絞り込むことができるバッハの作品と詳しく比較しました。その結果このコラールは、バッハ晩年の一七四〇年代に、新たに書かれたものであることが判明しました。この調査結果を含むコラール全体の意義についての論考を当館の『紀要』第三号(一九八七年)で発表し、バッハ研究にささやかな寄与をすることができました。

今回は、加賀藩歴代藩主ゆかりの国宝、重要文化財を含む名宝に、前田家十六代・利為が海外で収集した世界的な名品を交えて展示します。最初にご注目いただきたいのは、四年ぶりの展示となる、国宝《日本書紀》(四巻のうち巻第十一)です。

『日本書紀』は、舎人親王等が編纂し、養老四年(七二〇)に元正天皇へ奏上された歴史書です。前田育徳会には、巻第十一仁徳天皇紀、巻第十四雄略天皇紀、巻第十七継体天皇紀、巻第二十敏達天皇紀の四巻の古写本が所蔵されており、いずれも平安時代後期に書写されたものです。この巻第十一の筆者は、藤原道長の四男藤原能信とされてきましたが定かではありません。三条西家の所蔵となった後、享保三年(一七

一八)三条西公福から義父である加賀藩五代藩主・前田綱紀に贈られました。

重文は、《四季山水図》(伝周文)が展示されます。本作は、儒教や禅思想の浸透にともない、脱俗への志向が高まってきた時代を代表する貴重な作例のひとつといえることができます。そして今回は、前田利為の収集品のなかからルノワールの《アネモネ》と、バッハとモーツァルトの自筆楽譜も展示されます。《アネモネ》は、修復後初めての当館での公開であり、画家本来のマチエールを再認識することができます。さらに十一年ぶりとなる自筆楽譜は、バッハやモーツァルトに対する一般的な見方に修正を迫る、重要な価値を持つものです。

## 第2展示室

# 特別陳列 よみがえった文化財 —修復工房の修復実績—

### 【古美術】

8月31日(土)～10月7日(月) 会期中無休

## 関連行事

修復技術者によるギャラリー・トーク (事前申し込み不要・要観覧料)

九月十六日(月・祝)・二十三日(月・祝)の午前十一時～

会場：美術館ホール

日時：九月二十三日(月・祝)午後一時三十分～

講師：朝賀 浩氏(京都国立博物館学芸部長・前文化庁主任文化財調査官)

財の保存と公開の根本を見つめ直すセミナーです。

装潢作品の話を中心に、「文化財保護法」を根拠に何を保護すべきかという事の再確認など、文化

「文化財修理と文化財的価値の保存」

修復工房セミナー(事前申し込み不要・聴講無料)

本展では、昨年度手がけた指定文化財の修復作品を中心に展示します。その多くが修復後初公開の貴重な機会であり、修復工程も合わせて紹介します。また、当修復工房は日本で唯一、修復作業を常時ガラス窓越しにご覧いただくことができます。展覧会と合わせて足を運んでいただき、本年創設六十年を迎えます。

※関連行事を左記の通り開催いたします。

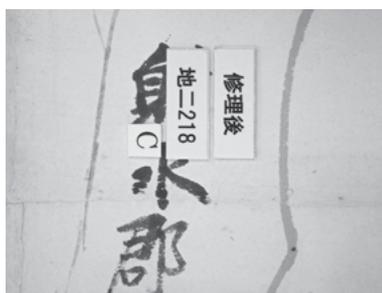
加賀市文	御霊屋地袋襖「獅子之図」(実性院所蔵)
白山市文	林西寺文書(林西寺所蔵)
金沢市文	千石谷十七日講関係資料
蓮如影像	(千石谷十七日講保存会所蔵)
富山県文	杉戸絵「唐獅子図・一角獣図」(勝興寺所蔵)
白山市文	林西寺文書(林西寺所蔵)
積浄融・性融法名	蓮如筆
重要文化財	石黒信由関係資料(射水市・高樹会所蔵)

石川県は、平成九(一九九七)年に石川県立美術館の付属施設として、地方公共団体として初めて、石川県文化財保存修復工房を開設しました。二十八(二〇一六)年には、建物の老朽化に伴い美術館の広坂別館に隣接して新築移転しました。修復工房では、(一財)石川県文化財保存修復協会の修復技術者が、指定文化財をはじめとする多数の作品修復を手がけ、地元北陸の文化財修復の拠点となるべく実績を重ねています。

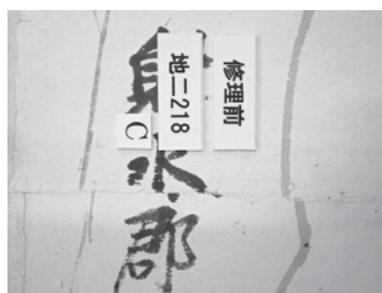
石川県は、平成九(一九九七)年に石川県立美術館の付属施設として、地方公共団体として初めて、石川県文化財保存修復工房を開設しました。二十八(二〇一六)年には、建物の老朽化に伴い美術館の広坂別館に隣接して新築移転しました。修復工房では、(一財)石川県文化財保存修復協会の修復技術者が、指定文化財をはじめとする多数の作品修復を手がけ、地元北陸の文化財修復の拠点となるべく実績を重ねています。

主な展示作品

た美術館の歴史とともに、北陸の文化財を守り伝えていくという、地域に根ざした美術館と修復工房の活動を、知っていただく機会となれば幸いです。



修理後



重文《石黒信由関係資料》より(部分) 修理前



## 令和元年度 学校出前講座

今年度の学校出前講座が六月からはじまり、今まで開催が少なかった野々市市での開催が叶いました。野々市市立御園小学校の六年生三クラスでは、一クラス一時間をかけていろいろな鑑賞方法を体験する授業、また、五年生はじめ他学年でも、小さな美術館になった体育館で、実物ならではの作品鑑賞の楽しさを味わってもらいました。

今年度の今後の予定は、九月末以降から十一月中旬にかけて、南は加賀市立橋立中学校から、北は七尾市立天神山小学校まで計九校で開催予定です。今日、この学校出前講座で久しぶりの七尾市での開催となり、小学校では、この七尾市立天神山小学校ではじめて開催となります。また、今まで本講座開催済みの学校も前回の開催から数年経過したこともあり、学校からのご要望にお答えし、今年度は二校で二回目の開催いたします。今年度もこの出前講座開催で作品を鑑賞する楽しさを、たくさんの子どもたちに伝えていきたいと思っています。



## 皇嗣秋篠宮妃紀子さま石川県文化財保存修復工房視察

七月十一日に開催された「第五十五回献血運動推進全国大会」の式典へ出席のため、十七年ぶりに来県された秋篠宮妃紀子さまは、式典に先立つ七月十日に石川県文化財保存修復工房を視察されました。

(二財)石川県文化財保存修復協会の中越一代表理事の案内により、藩政期の絵図(石川県立図書館所蔵)や御霊屋地袋襖(加賀市指定文化財・実性院所蔵)、「石黒信由関係資料」(重要文化財・高樹会所蔵)、「架鷹図屏風」(金沢美術工芸大学所蔵)、「薄木版下絵詩歌巻」(石川県指定文化財・当館所蔵)などの修復作業(調書作成・絵具の剥落止め・虫喰いの繕い・解装・汚れの除去)を見学されました。紀子さまは、中越代表の説明に耳を傾けながら、それぞれの作品を熱心にご覧になり、作業の期間や道具のことについて質問されました。床に膝を付いてのぞき込むようにご覧になる一コマも見受けられ、作業に携わっている職員一人一人に「大変なお仕事ですね。体に気をつけて。」など、ねぎらいのお言葉をかけて下さいました。

お帰りの際には、お見送りの人々にお声がけをされるのは勿論のこと、中越代表に、本日の作業内容について改めて確認され、熱心にメモをとられるお姿や、「学びの旅となりました。」とのお言葉に、驚きと同時にこのたびのご訪問に、あらためて感謝するひと時となりました。

なお、当工房には平成二十九年の皇太子さま、同三十年の秋篠宮さま、そしてこのたびの紀子さまと、三年連続で宮家の皆様をお迎えしました。職員一同、このような貴重な経験をさせていただいたことを糧に、さらなる精進を心に期するものとなりました。



# 第50回文化財現地見学 参加者募集

催行日：令和元年10月19日(土)・20日(日)(1泊2日)

参加料金：友の会会員：二五、〇〇〇円  
 会員外：二六、〇〇〇円  
 応募締切：令和元年九月十三日(金)必着

日程／出発 十月十九日 午前七時  
 帰着 十月二十日 午後六時  
 発着／金沢駅 金沢駅西口団体バス乗り場  
 ※移動はすべて貸切バスで、宿泊は一人一室(シングル)となります。

◆見学地

【良寛記念館】

良寛作品や随筆家で良寛研究家の相馬御風の作品を鑑賞します。

【良寛生誕地(良寛堂)】

良寛の生家橘屋の屋敷跡を見学します。

【光照寺】

ご住職の解説を聞きながら、光照寺の歴史や良寛について知見を広げます。

※寺院まで階段や坂道があります。

【良寛終焉地(木村邸宅・隆泉寺)】

解説を聞きながら、良寛晩年に居住した和島(島崎)地域の木村邸や良寛の墓がある隆泉寺を巡ります。

【良寛の里美術館】

「糸魚川市に伝わる名品」展を鑑賞しながら、糸魚川市の文化財と良寛を含む様々な書を堪能します。

【旧笹川家邸宅】

笹川家は、一四代三〇〇年にわたり続いた名家です。解説を聞きながら、重要文化財の屋敷を見学します。

【彌彦神社】

正式参拝後、解説を聞きながら境内や宝物殿を見学します。

【国上寺】

解説を聞きながら境内と宝物殿を散策します。希望者のみ、良寛が三十八才から五十九才まで過ごした

五合庵(復元)を見学します。  
 ※五合庵までは急な階段や坂道を含む山道です。

◆申込方法

往復はがきに「文化財現地見学希望」と明記し、氏名・年齢・性別・郵便番号住所・電話番号・会員番号を記載のうえ、ご応募ください。定員四十二名、応募者多数の場合は抽選となります。

◆宛先

〒九二〇一〇九六三 石川県金沢市出羽町二の一  
 石川県立美術館「文化財現地見学」係

※行程には徒歩移動や坂道、階段などが多く含まれます。脚に不安のある方はご注意ください。

## 9月の行事予定

1日(日)	【美術館創設60年のあゆみ】記念講演会 13時30分～15時 美術館ホール 無料 「石川県立美術館 創設60年のあゆみ」 講師 嶋崎 丞(当館館長)
8日(日)	【百万石の文化講座 13時30分～15時 美術館ホール 無料 「前田利為侯のコレクション」 講師 菊池浩幸氏(公財前田育徳会主幹)
23日(月・祝)	【第5回修復工房セミナー 13時30分～15時 美術館ホール 無料 「文化財修理と文化的価値の保存」 講師 朝賀 浩氏(京都国立博物館学芸部長)
15日(日)	【映像ギャラリー 13時30分～ 美術館ホール 無料 「石川県立美術館紹介」(29分) 「文化財の劣化と保存化学 文化財の劣化と対策」(生物的要因) (23分)
22日(日)	【シリーズ 北陸の工芸作家 石川の匠たち】(50分) 「人間国宝 松田権六の世界」(12分)
29日(日)	【シリーズ いしかわの文化財 くさぎよみ工芸技術編】(21分) 「日本の巨匠シリーズ 松田尚之・西山英雄」(各15分)

## 《友禪着物 波動》ゆうぜんきもの はどう

丈170cm 裾68cm 平成7年(1995) 第32回日本伝統工芸染織展 文化庁長官賞

二塚長生 ふたつかおさお

昭和21年(1946)～



※企画展「石川の美術 美術館創設六十年のあゆみ」に展示中。

地染は荒天の海を思わせる、濃色の粒がランダムに入った褐色、波の白い部分は細い線と点のみで描かれており、友禪染の糸目糊置きによる、絹地そのものの白色です。

江戸時代後期の小袖に見られる、濃色の地に防染糊の線で模様を描いた、白上げという技法を、大胆に展開させた、糸目糊だけによる描写であり、本作は二塚が本格的にこの技法を用いた作品の中でも、初期の代表作の一つです。

テーマは二塚が生まれ育った北陸、波しぶく冬の日本海です。左の襟先から全体に広がる波を、図案化して直線的に描きながら、躍動感を見事に表現しています。線の長さや太さ、間隔を自在に変えることができる、巧みな糸目糊置きの技術に基づいた、計算しつく

された意匠です。もともとは画家を志し、洋画家・吉田富士夫と、日本画家の齋藤清策に師事した二塚の、豊かな感性がうかがえます。本作は友禪染の新しい展開を打ち出した作品として高く評価され、第三十二回日本伝統工芸染織展で文化庁長官賞を受賞しました。

この後日本伝統工芸展で受賞を重ね、平成二十二年に石川県関係の染織作家として、木村雨山に次ぐ、二人目の重要無形文化財「友禪」保持者の認定を受けています。

糸目糊置きを主体とした表現に切り替えてから、糊はすべて自作するという二塚は、伝統的な防染糊の工法を守りながら、友禪染の可能性を追求し、現在もお、新しい表現に果敢に取り組んでいます。

## 次回の展覧会

令和元年10月12日(土)  
～11月17日(日)  
会期中無休

	前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室
	加賀藩の美術工芸 I	石川の文化財
第5展示室	第3・6展示室	第4展示室
秋の優品選 【近現代工芸】	優品選 【近現代絵画・彫刻】	鈴木治男 共生の森 【近現代絵画】

## ご利用案内

## コレクション展観覧料

一般 360円(290円)  
大学生 290円(230円)  
高校生以下 無料  
※( )内は団体料金  
9月2日は第1月曜日より  
コレクション展示室無料の日

## 9月の開館時間

午前9:30～午後6:00

## カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00 年中無休

9月は無休で開館しています

## 「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか？

石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、  
県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ

郵送配布!! 3,000部発行

ターゲットを狙った  
知名度向上

県立美術館発行の  
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせは ☎092-716-1401

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F  
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財務確保 株票

石川県立美術館だより  
第431号(毎月発行)  
2019年9月1日発行  
〒920-0963  
金沢市出羽町2番1号  
Tel:076(231)7580  
Fax:076(224)9550  
URL <http://www.ishiki.pref.ishikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。